

## ハンドボールにおけるゲーム分析 ～2005年世界選手権における男女日本チームの特徴～

### Analysis of Handball Game ～Feature of Japan Team in The Men's and Women's World Championship 2005～

岡 本 大\*, 吉 田 久 士\*\*

Dai OKAMOTO \* and Hisashi YOSHIDA \*\*

#### はじめに

スポーツにおいてその競技力を向上させようと試みるとき、多岐にわたる側面からのアプローチが必要となってくる。球技においても体力や技術・戦術などさまざまな要素でのレベルアップが求められるが、そのための方法は指導者の経験にかたよるものでなく、根拠となるできるだけ多くの客観的な情報が利用されなければならない。ハンドボールにおいても、特に戦術の決定に際しての拠り所となる情報に対する重要性が焦点をあてられている。筆者らはすでにアテネオリンピックにおける上位チームのシュートエリアと成功率に関する傾向を報告してきた。本報告では、2005年に開催された男女の両世界選手権において、特に日本チームのパフォーマンスの特徴を検討した。

ームが64.1回で共に60回を超え、同様の回数であった(表1)。これは近年のハンドボールの特徴である、攻撃展開の高速化への順応が反映されていることが推察された。シュート数については日本チームが50.0回、上位チームが52.4回であり、ミス数については日本チーム16.4回、上位チーム11.7回であった。攻撃におけるミスの割合を比較してみると(図1)、日本チームが24.7%で、上位チームの18.2%を上回った。つまり日本チームは攻撃をシュートまで至らないで終わる率が約6%高いことが示された。またシュートに着目し、そのエリアとシチュエーションにより分類して分析したデータが表2である。まずシュートの割合についてみてみると、特に注目する点は9mからのシュートである(図2)。日本チームは9mからのシュートが51.6%の割合を占め、上位チームは

#### 男子世界選手権

国際ハンドボール連盟によるデータからシュート関連のデータを集計し、日本チームと上位4チームのシュート方法およびシュート成功率に着目し分析を行った。まず攻撃の全体像については、一試合の攻撃回数が日本チームは66.4回、上位チ

表1 攻撃回数(男子)

	日本チーム	上位チーム
攻撃回数	66.4	64.1
シュート数	50.0	52.4
ミス数	16.4	11.7

\* 国士館大学大学院スポーツ・システム研究科 (Graduate School of Sport System, Kokushikan University)

\*\* 国士館大学体育学部 (Faculty of Physical Education, Kokushikan University)

34.7%で約15%もの違いがあった。ではその成功率はどうであったか集計してみると、日本チームの32.6%に対し上位チームは44.2%で10%以上も

の開きがあった(図3)。9 mからのシュートすなわちロングディスタンスのシュートを上位チームは4割を超える成功率を達成し、日本チームは

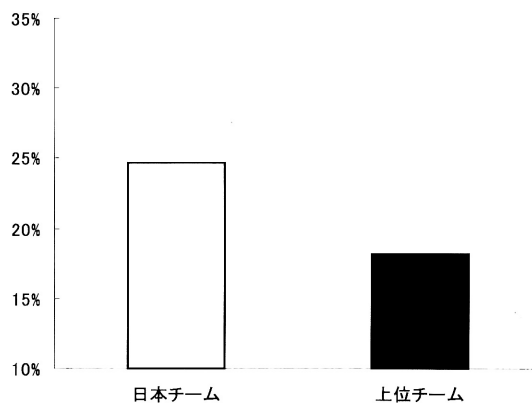


図1 ミス率 (男子)

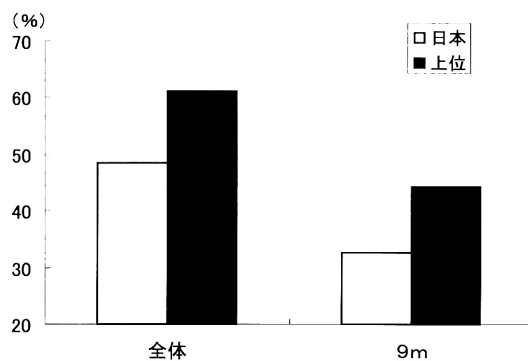


図3 シュート成功率 (男子)

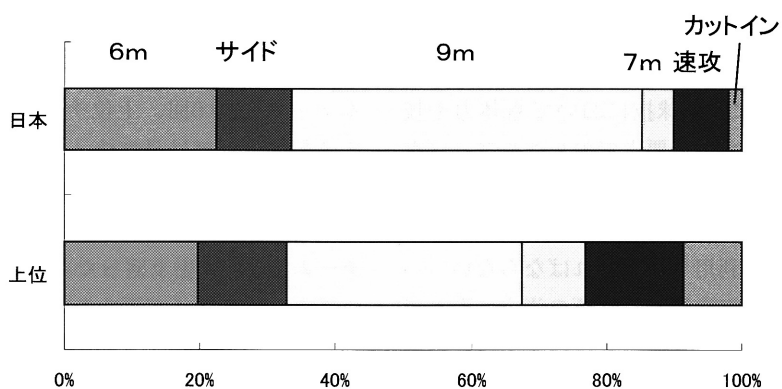


図2 シュート割合 (男子)

表2 シュートの割合及び成功率 (男子)

		全体	6m	サイド	9m	7m	速攻	カットイン
日本	シュート数	121/250	32/56	16/28	42/129	8/12	18/20	5/5
	成功率 (%)	48.4	57.1	57.1	32.6	66.7	90	100
	割合 (%)	100	22.4	11.2	51.6	4.8	8.0	2.0
上位	シュート数	1283/2096	268/415	158/273	322/728	150/194	249/308	136/178
	成功率 (%)	61.2	64.6	57.9	44.2	77.3	80.8	76.4
	割合 (%)	100	19.8	13.0	34.7	9.3	14.7	8.5

約3割にとどまる成績を示した。シュート割合と合わせて検討してみると、日本チームはシュート成功率の最も低い9mからのシュートをより多く試行している、もしくはそうせざるをえない攻撃状況にさせられていることが考えられる。一方上位チームは単純に9mからのシュート力・技術が高いのか、もしくは9mからのシュートにおいてもよりフリーな状態で試行できる、フィジカルもしくは戦術を有していることが考えられる。

### 女子世界選手権

前述した男子世界選手権のものと同様に分析をした結果、攻撃回数は日本チーム、上位チーム共に男子のそれを上回る回数であった（表3）。特に日本チームは75.0回と非常に多い攻撃回数を示し、上位チームよりも6回も多く、極めてハイスピードな展開をする戦術を選択していたことが推察された。ただし、シュート数、ミス数に着目し

てみると日本チームは攻撃の26.9%をミスで終了し、上位チームのミス率19.6%を大きく上回り、素早い展開を試みるがコントロールしきれていない部分もあった可能性がみられた（図4）。

シュートに視点を移して分析した結果が表4である。シュート割合をみてみると、日本チームも上位チームもほぼ同様なシュート分布を示した（図5）。しかしながらシュート成功率に着目してみると、シュート全体では日本チーム55.4%、上位チーム57.4%と大きな差はみられないが、男子のものと同じように9mからの成功率に大きな違いがみられた（図6）。9mからのシュート成

表3 攻撃回数（女子）

	日本チーム	上位チーム
攻撃回数	75.0	69.0
シュート数	54.8	55.5
ミス数	20.2	13.5

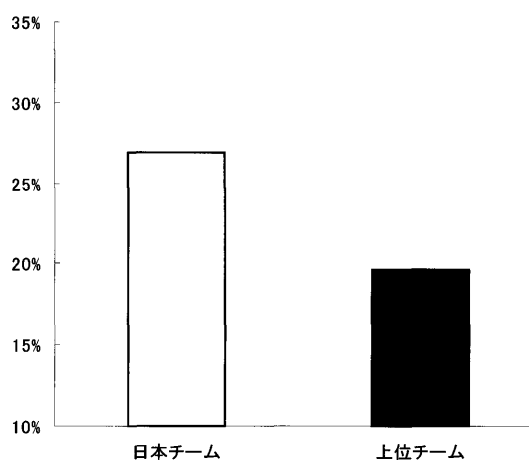


図4 ミス率（女子）

表4 シュートの割合及び成功率（女子）

		全体	6m	サイド	9m	7m	速攻	カットイン
日本	シュート数	152/274	25/39	18/31	28/105	24/35	34/37	23/27
	成功率(%)	55.4	64.1	58.1	26.7	68.6	91.9	85
	割合(%)	100	14.2	11.3	38.3	12.8	13.5	9.9
上位	シュート数	1273/2218	268/393	124/257	373/892	135/179	261/346	112/151
	成功率(%)	57.4	68.2	48.2	41.8	75.4	75.4	74.2
	割合(%)	100	17.7	11.6	40.2	8.1	15.6	6.8

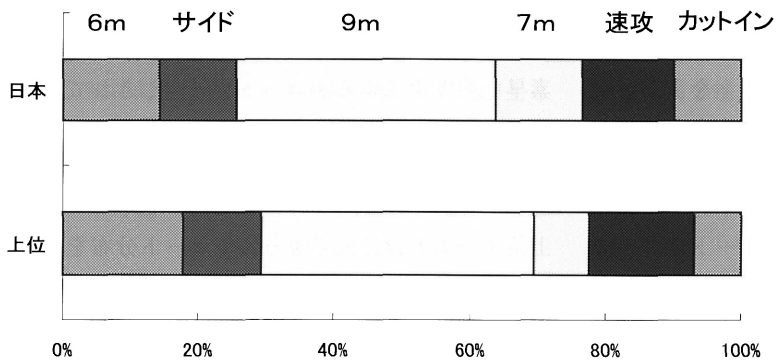


図5 シュート割合 (女子)

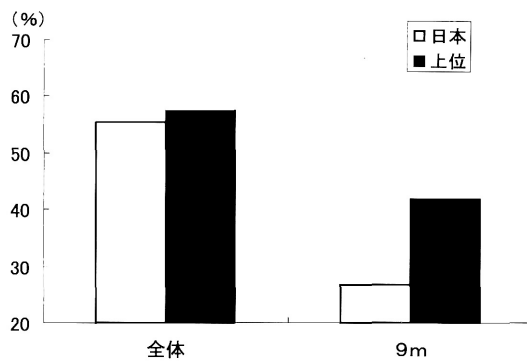


図6 シュート成功率 (女子)

成功率において日本チームは26.7%であるのに対し、上位チームは41.8%で約15%もの開きがあり、上位チームが大変優れていた。日本チームはハンドボールで大きなシュート割合を占める9mからのシュートにおいて、上位チームと比較すると成功率が低く、その点における身長を含めたフィジカ

ルや技術にレベルの差がある可能性が示唆され、勝敗へ影響を与えていることが推察された。

なお、本研究は国士舘大学体育学部附属体育研究所の2005年度研究助成を受けて実施されたものである。